

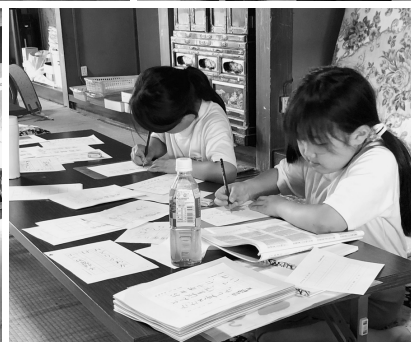
書塾の仲間たち

第281回

書彩（長野県千曲市）



いろいろな書体で『魚』を表現し、展覧会に出品しました



●書塾からひとこと●

書道教室「書彩」には、年少のお子さんから年配の方まで、男女問わず幅広い世代の方々が通っています。年齢や経験にかかわらず、筆を持ち、書に向かう時間がそれぞれ心を整えるひとときとなるよう、落ち着いた環境づくりに努めています。教室では子どもたちの笑顔と、大人の方が静かに筆を運ぶ姿が同じ空間を共有していて、世代を超えて温かい空気が流れています。

指導にあたっては、一人ひとりに合った書教育を大切にしています。筆の持ち方や姿勢、基本点画の積み重ねを丁寧に伝えながら、それぞれの性格や得意なところを生かして、無理なく続けられるペースで寄り添うことを心がけています。「こう書かなければいけない」ではなく、「今日できることを精いっぱいやろう」という気持ちで、対話を重ねることでその日の学びを作品として「一緒に作り上げる」ようにしています。

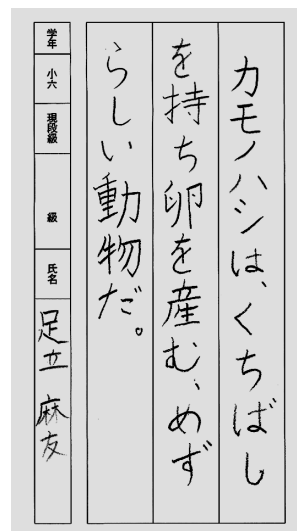
月刊「書写書道」の競書は、毎月の努力の成果が形になる大切な機会です。生徒にとって昇級や成績と返ってくる結果は励みとなり、また次の目標へ向かう原動力になります。結果だけではなく、作品と向き合う姿勢や気持ちを切り替え、作品に集中する時間、書き終えたときの達成感に満ちた晴れやかな表情など、どれも書を通じて育まれた内面の成長を物語っていると思います。

そして、指導する立場でありながら、私自身も生徒から学ばせてもらうことが多々あります。一人ひとりの言動や表情、作品からは、改めて書の奥深さや人の温かさ、そして書教育の意義を認識させられます。

「書彩」は、私にとっても成長の場であり、皆で共に学び合う場所だと思っています。これからも、書を通じて心が豊かになる時間を届けられる教室でありたいと願い、誠実に丁寧な指導を続けてまいります。

書彩 島田いずみ

※書塾に連絡したい方は事務局へお問い合わせください。



文字を書くことの楽しさを知りました

静岡県浜松市立積志小学校六年 足立 麻友

私は小学校四年生のときに硬筆を始めました。きっかけはバランスよく字を書くことができず、丁寧に書くとうすると書くスピードがとても遅くなってしまい、「速くきれいに書けるようになりたい」と思ったからです。

教室では毎月の競書課題だけでなく、漢字の書き取りなども先生に指導していただいています。毎月の課題は五年生まではマスで区切られていましたが、六年生になるとマスがなくなり、文字の中心を取ることや漢字と平仮名がバランスよく書けるか不安でした。

自分で工夫したのは、お手本をしっかり見ることです。書く前には、今まで先生に教わってきた「字をきれいに書くコツ」を思い出し、心を落ち着かせてから取り組みます。このようなことを意識することできれいな字を書くことができるようになったと思います。自分のイメージ通りの文字が書けた時は、これまで練習してきた成果を実感することができてとても嬉しくなります。

教室では毛筆の勉強にも取り組んでいます。鉛筆で書くのと比べて、自分で線の太さを変えることができるのが、とても面白いです。これから毎回の練習を大切にし、もっと上達して、いろいろな文字で自分らしい作品を表現できるようにになりたいと思っています。

もっときれいな字が書けるようになり、自分の字に自信が持てるよう努力して、練習を頑張ります。

私と書写書道 第281回



集中する力や気持ちの切り替えが身につきました

静岡県浜松市立泉小学校六年 竹久 佳澄

私は幼稚園から硬筆を習い始めました。習い始めてしばらくすると、「字が上手だね」と周りの人に言われるようになり、それが嬉しくて、小学校に入ってから毛筆も始めました。初めは先生のようにまっすぐな線を書くことができず、「とめ・はね・はらい」もうまくできませんでした。一筆一筆を丁寧に書くことを心がけ、先生のお手本をよく見ながら時間をかけて練習しているうちに、気がつくとう書道が私にとって「夢中になれる時間」と変わっていました。

私は、一つのことに集中するのが苦手で、新しいことを始めても、すぐにやめてしまう性格でした。そんな私が「ただひたすら字を書く」時間を積み重ねるうちに、作品が賞をいただいたり、展示されるだけでは満足できなくなりました。「もっときれいな字が書きたい」という思いからさらに練習することで、集中力がついてきたように思います。また書道に向き合う時間が良い気分転換になって、前よりも気持ちの切り替えができるようになったと感じています。

書道を習い始めて六年が経ち、いろいろなことを経験できました。家族で新幹線に乗り、日本武道館で開かれた席書の大会に参加したことも忘れられない思い出です。また、展示会などで他の人の作品を見るたびに「私ももっと上手に書けるようになりたい」という気持ちがさらに強くなり、書道に対する意欲が湧いてきます。

これからも「夢中になれる時間」を大切にしながら、書道だけでなく、さまざまなことに挑戦していきたいと思っています。